



芦沢浩医師

医療 最前線

県立中央病院から

〈320〉

胃酸が食道に逆流し、胸焼けや胸痛などを起こす胃食道逆流症。内視鏡を使っただ体に負担が少ない治療法

胃酸が食道に逆流し、胸焼けや胸痛などを起こす胃食道逆流症。内視鏡を使っただ体に負担が少ない治療法

消化器内科の芦沢浩医師

によると、胃食道逆流症の原因の多くは、胃と食道の接合部が緩み、胃酸が薬では症状が改善しない、

このような患者には、腹部の傷が治る過程で、緩んだ接合部が引き締まるという。粘膜を切り取る手法は、既に早期の胃がん治療で使われてきた。合併症のリスクは低く、腹部は切開しないので体への負担が少ないという。入院期間は3泊4日程度で、腹腔鏡手術より短い。

胃食道逆流症 新治療導入へ

内視鏡を活用 リスク低く

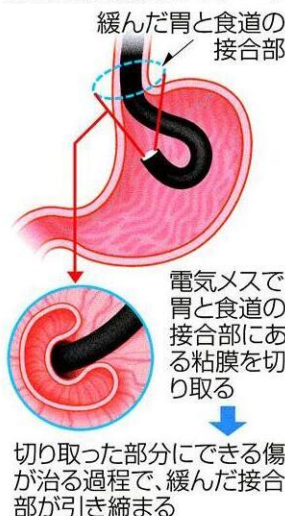
逆流しやすい状態になる「食道裂孔ヘルニア」。加齢や肥満、食生活の乱れによる。また薬の服用をやめると再発してしまう患者もいる。

可否を慎重に判断する必要があった。

そこで着目したのが、全

が登壇し、山梨県立中央病院も導入準備を進めている。従来の薬物治療・手術が難しかった患者に向け、

胃食道逆流症の新たな治療法のイメージ



国の医療機関で導入されつつある「内視鏡的逆流防止粘膜切除術」(ARMS)と呼ばれる治療法だ。具体的には、口から内視鏡を入れ、電気メスで胃と食道の接合部にある粘膜を切り取る。切り取った部分にできる傷が治る過程で、緩んだ接合部が引き締まるという。粘膜を切り取る手法は、既に早期の胃がん治療で使われてきた。合併症のリスクは低く、腹部は切開しないので体への負担が少ないという。入院期間は3泊4日程度で、腹腔鏡手術より短い。

芦沢医師は旧竜王町(現甲斐市)出身。昨年まで3年間、国内有数の内視鏡の治療実績がある静岡県立静岡がんセンターで研さんを積んできた。芦沢医師は「これまで学んできた経験を山梨県民に還元し、質の高い治療を提供したい」と話している。

Ⅱ次回は10月14日に掲載します